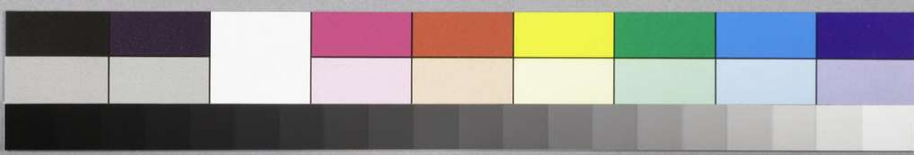


419  
1

算法少女 わ419-1 00-001

国立国会図書館





題算法少女

夫數之於六藝也猶橘之於六君  
與何則禮樂射御書由是而達蕩  
苓木甘夏匪彼不行故小技而列  
于藝林賤者而廁乎君子嗟術之  
妙貴老之名不亦宜乎余家本攝



州世隱乎藪澤刀圭之暇旁及斯  
技釣玄探幽忘食忘憂假以歲月  
頗臻其妙嘗有故而東又有故而  
西鱸蓴之思雞黍之期不遠千里  
而來而往不遑寧處栖遲遲蓋  
有年矣近卜居于東都城東自號

壺中隱者蓋世人擇醫貴老為常  
恐於余與改焉斯書也嘗口授少  
女彼輯而為卷且請為之名余閱  
之曰斯嘗口授者也乎曰然然則  
其功在余名以貴老與雖媿女集  
而為卷其勒在女當以少女少女







文はひらくかぬ海。及ひくく水の月。余  
 橋次は池。そまをえ。公なり。くは言と本音の橋  
 少く。はくく。く。少。至。は。浪。の。廉。く。は。か。く。あ。り。先  
 三の。き。と。なり。ゆる。又。或。時。家

日の。か。り。算。書。の。更。あ。く。は。結。り。の。ふ。い。ま。り  
 算。算。社。と。初。見。古。今。算。法。ま。の。み。の。新。月。は。た  
 算。算。同。と。り。か。く。い。言。術。は。思。の。唐。の。算。の。圖。は  
 へ。え。初。く。く。人。か。く。演。段。の。妙。なり。と。関。の。東。小

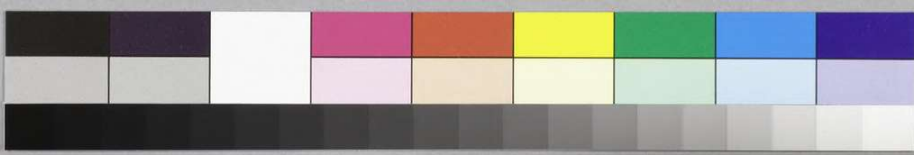
く。八。關。氏。の。算。微。文。あ。く。く。文。集。の。初。漢。世。小。は。は。き。  
 算。後。算。法。推。後。の。あ。く。く。の。同。代。徳。後。算。書。へ。く。十。算。有。  
 へ。く。と。吾。妻。の。青。山。氏。中。算。か。て。答。ま。く。と。活。物。の。算。段。  
 橋。津。の。探。玄。最。後。の。便。蒙。瓊。浦。の。算。微。く。ふ。藍。く。り。と  
 あ。は。く。水。り。も。い。き。と。や。其。外。中。少。汗。一。株。は。え。え。不  
 算。く。く。又。と。派。に。入。楚。の。未。あ。く。浪。の。五。岳。は。解。し  
 へ。く。自。回。算。と。く。か。く。く。算。を。算。法。へ。く。紙。い。と。ら  
 二。月。さ。り。か。算。く。く。く。も。書。派。く。答。と。思。は。り。く

卷之上

五







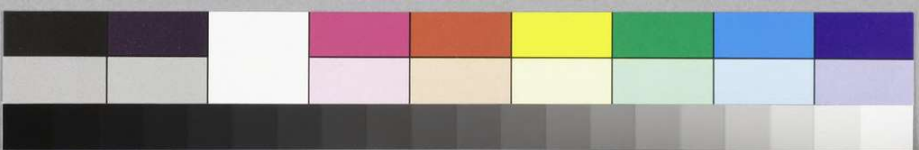
少くも圓法七九と云是なり徑一尺の半角其積七十九寸  
 あり又徑一尺圓定一寸五分之角と云る前の二尺一寸五分あり  
 又密なるものなり則ち法七八と云是なり徑一尺の角積  
 七十九寸五分のみをかりて密なるは徑百十三周三百六十六也  
 内外秘殊大率ぬは皆密のことく角の内初半角と入又八角  
 と容も十六角と容六十半角百八八角二百六十六角四百十二角  
 角○半半角と法角と角積と倍くく十余半角と角く  
 術わりく括要算法 各の徑百十三周三百六十六と得たり  
 然れどもきい半角候はふといはも角の名を消へも  
 法周の角はわははまに取ら初漢古今より小角の人

至りて終りたる予角の術と不用也。心術と  
 ぬぬの術あり至極の秘術なりといへども  
 今或人の驚らふよきい書の卷末よ委しく  
 是と記しつゝ字もあつと大極玄母の秘術あり  
 世の人々も其業のいやしきもてみたり  
 是れと云ふことなり

余嘗讀<sub>テ</sub>吳志<sub>至</sub>頭乘尾除一算之法。父母不相語。  
 及<sub>テ</sub>死<sub>テ</sub>孫權聞<sub>テ</sub>趙達有書求<sub>レ</sub>之不得。乃發<sub>テ</sub>其棺。一無  
 所得。法遂絶焉。未嘗不廢書而歎也。夫人死技絶。  
 古今甚多。叔夜死。大平引絶。可類推已。孰與示諸。







四方以垂于不朽。與天下後世共之也。

安永乙未之冬 壺中隱者誌



算法少女卷之上

攝州 壺中隱者撰術 季女平氏輯

○自問自答十條

第一

今をいふ。ある長者の。錢の買小や。買大の。多ふ。不  
<sub>レ</sub>知。甲小に。き。事。米一粒と。銅。日。海。日。さ。く  
<sub>レ</sub>日一倍。あ。く。移。り。ぬ。く。大。打。き。も。初。り。ぬ。く。こと。紙  
<sub>レ</sub>印。も。り。ぬ。く。長。者。亦。多。い。く。い。く。公。易。事。なり。何。財。も  
<sub>レ</sub>あ。ら。ず。得。ず。せん。し。し。を。さ。れ。ハ。彼。あ。の。く。新。く。ハ。一。月。の  
<sub>レ</sub>熱。意。と。信。也。只。今。を。い。く。と。し。り。長。者。も。い。く。





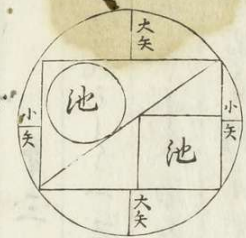


卷之十一

第八

八算法は日算する事。十寸五分は百尺十二石七斗八升九合  
置。ゆふより皆のこゝろ一二三又八。各を算めしむる由。  
半とすものまゝりしむ。人々算する事しむる由。  
之の形の中

第六



家のこゝろ。大池の内小直田也。又内は  
方角の池あり。大矢非す。小矢一寸。内の旁徑  
方角と知る事。要し初心の是也。知文  
池の事

第七

今何れも小石あり。是と一ふりかきし。二六七九。奇  
数より取らば。余り八十。又二四六八十。偶数より取  
らば。余り四十。是れと知る事

其八

今二三人もて又七人。お義し。何百何十何々何々何々  
とある。側より十段盤し。持ちし。何れ人置。何れ人  
遠し。何れ人近し。何れ人知る事

臺中湯若田。何れ此か。何れ品の人。湯花もあつ。何れ形  
と十令。何れ。好事の事。何れ求む。不徳の事



類の今之術とト世小妻ト之記と

其九

小石坂二十よりく道へ。初之石と定め。又日月よ  
あつらふ。石と云ふ。又之次く。又の石と云ふ。あつらふ。  
何書目の石と云ふ。月乃く。又の石と云ふ。十番。あつらふ。  
初之秘術の事

第十

孕婦の卒の報。又之月と云ふ。生う子の男女  
と初之秘術の事

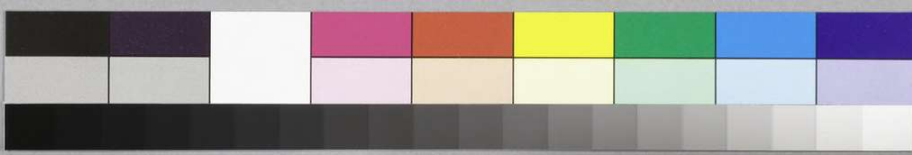
此術古今類多し。ト世之記と云ふ。其の秘術は

○右十問之初雅の法。ト世之記と云ふ。此の術は  
初之何の者。此の法。初之の法。ト世之記と云ふ。  
此の法。ト世之記と云ふ。初之の法。ト世之記と云ふ。  
下のをと見ふ。ト世之記と云ふ。初之の法。ト世之記と云ふ。  
初之の法。ト世之記と云ふ。初之の法。ト世之記と云ふ。

○愚問十條

第一

小所の怪。一夜二よ。ト世之記と云ふ。七夜八夜九よ。ト世之記と云ふ。  
此の法。ト世之記と云ふ。初之の法。ト世之記と云ふ。初之の法。ト世之記と云ふ。  
中。ト世之記と云ふ。初之の法。ト世之記と云ふ。初之の法。ト世之記と云ふ。



第二

いろはにちりぬるそつねなゆめみ  
者十六のかわと。入替く又文字の句はむとふ。その般  
何れおまふ。と云ふ事と初め解の事

第三

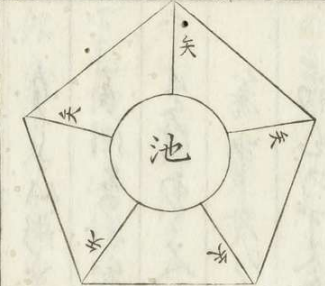
今実九柄。法七柄の般あり。除之一箇○○○○○七弱  
と得。実法もしく少般ともしく。その般と初  
解の事

第四

今事あつたり。と云ふ柄と云ふ人般と云ふ。只云初の

解可く。心中の取ふ。未の取可く。候と云ふ。○計百八  
又云初より。第二第三と。未の解可く。○内。計割あり  
人般と云ふ。と云ふ柄の般と云ふ解の事

第五



右の同みり。と云ふ。と云ふ。と云ふ。と云ふ。と云ふ。初学

圖のこく。五角半田の内より一化あり。  
矢も若干。外餘積若干。矢元と不用。  
必解と云。初学の見やと云。又事本と  
云。十番。と云。とお解。と云。  
角面。と云。と云。と云。と云。と云。



初の十問の御意と能く思召ひ。後考へていふ。  
自れい御と得候へ。あつ然の愛。初心の  
多し余小出へ候。自是以下の又問。そつち雅  
を法わく人のいへ。あつ然つていふ。そつち  
藤中よゆ。いはるの候り。あつ然つていふ。  
初心の可企及。あつ然。あつ然つていふ。そつち  
そつち考召ひ。於日月の力。師友の助わく。自然  
とそつち境へあり候。あつ然。あつ然つていふ。  
あつ然つていふ。あつ然。

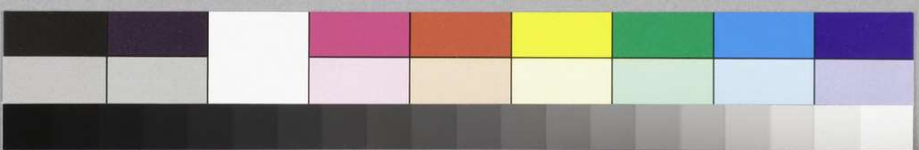
第六

今ある銀百片。此銀八十片と借。あつ然。あつ然つていふ。  
金指を二枚銀五分。此銀元利合。今指を二枚銀五分。あつ然。  
二毛八條。又あつ然。あつ然つていふ。あつ然。あつ然つていふ。  
あつ然。あつ然つていふ。あつ然。あつ然つていふ。  
あつ然。あつ然つていふ。あつ然。あつ然つていふ。

第七

今下の銀五。あつ然。あつ然つていふ。あつ然。あつ然つていふ。  
あつ然。あつ然つていふ。あつ然。あつ然つていふ。  
あつ然。あつ然つていふ。あつ然。あつ然つていふ。  
あつ然。あつ然つていふ。あつ然。あつ然つていふ。  
あつ然。あつ然つていふ。あつ然。あつ然つていふ。





卷之五

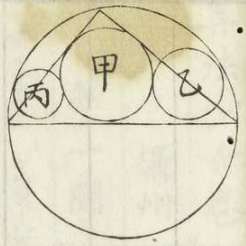
第八

今物あり。其系ねとわぬ。只と懸く。二百二十と係。  
懸く。其系ねとわぬ。只と懸く。二百二十と係。  
又懸る。其系ねとわぬ。只と懸く。二百二十と係。

第九

今物あり。其系ねとわぬ。只と懸く。二百二十と係。  
懸く。其系ねとわぬ。只と懸く。二百二十と係。  
又懸る。其系ねとわぬ。只と懸く。二百二十と係。

第十

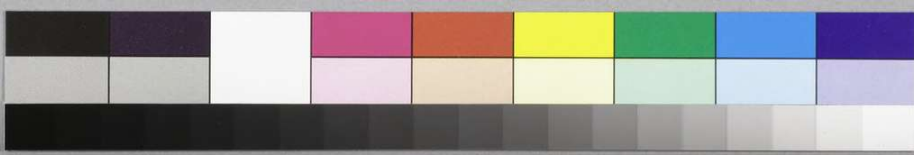


大のこゝ。大圓の内ふ之解く。甲乙丙の  
三の角と。只と懸く。二百二十と係。  
甲丙お系若干。乙丙お系若干。大  
圓徑と。其系ねとわぬ。只と懸く。二百二十と係。

以上の又問。同志のく。の考動小彼の。其と。  
まの考動小又問。同志のく。の考動小彼の。其と。  
まの考動小又問。同志のく。の考動小彼の。其と。

算法少女上之巻畢





算法少女の巻

算法少女卷之中

攝州 壺中隠者撰術 季女平氏輯

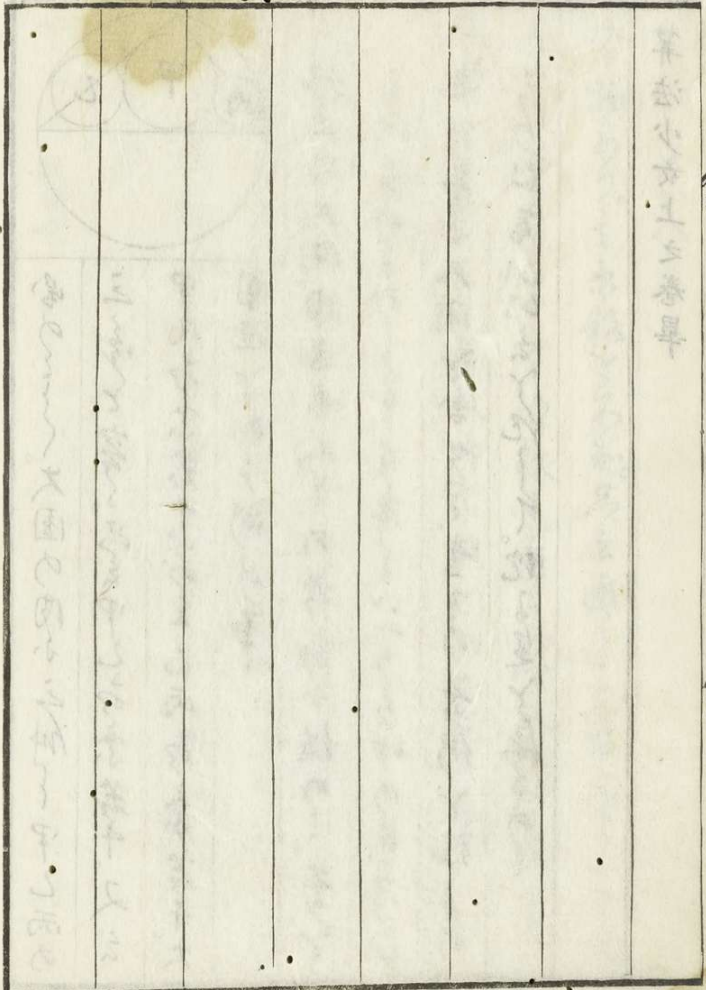
第一問

四十億二千百六	十九億八百十萬	三億六千百十	三十四百・七萬	百六十萬・千	三萬
十萬・八千正	・二十二百 負	三萬四千二百正	・二百・六 負	六百二十 負	負

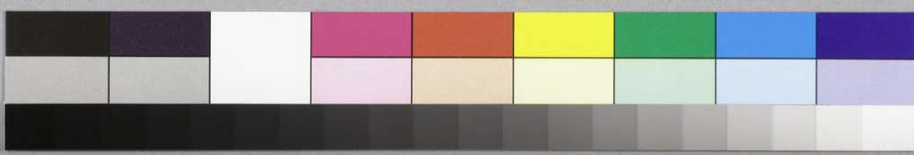
以式了見高幾所のや問答若干

答曰	甲 高十箇	乙 高十三箇
	丙 高十箇	丁 高十箇
	分之二百五	分之二十分

壺中隠者曰。是中井某之所設也。其人未嘗知受業于何門。若其問也。可謂高妙矣。余嘗在浪華。獲







之乎管廟。因思諸思諸。又重思諸。既而獲諸。若有神而通其術。所謂盡式而新奇者也。終答對焉。其術頗秘。不示人有年矣。故今於此書亦不載。獨載商數。且夫題辭書以國字。今遵而不改焉。覽者其察諸。

第二問

甲六十段	負	三百五十五	正	十七	正	十三	負	一算	正	右式
乙三十九段	負	三百五十五	正	十七	正	十三	負	一算	正	右式
甲五十二段	正	七百八十三	負	二百十九	正	二十五	負	一算	正	左式
乙四十四段	正	七百八十三	負	二百十九	正	二十五	負	一算	正	左式

今有如右兩式。右三商和<sup>八</sup>。左三商和<sup>六</sup>。問甲乙。

答曰甲十一 乙十

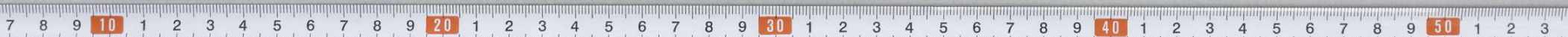
第二問

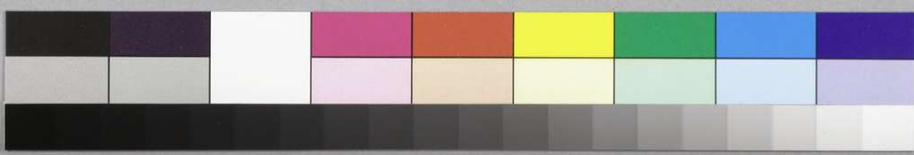


今有鈞股內容方圓及中鈞只云圓徑中鈞左<sup>四</sup>又云圓徑方<sup>五</sup>在<sup>五</sup>以<sup>五</sup>依<sup>五</sup>此數欲<sup>五</sup>得<sup>五</sup>鈞<sup>五</sup>股<sup>五</sup>及<sup>五</sup>長<sup>五</sup>短<sup>五</sup>各<sup>五</sup>五<sup>五</sup>商<sup>五</sup>之<sup>五</sup>式其術如何

答曰依左術得<sup>五</sup>商<sup>五</sup>四<sup>五</sup>式

壺中隱者曰余既答于中井蓋以盡式新術也。幾何又得二問。則藤澤武義之所設也。此諸第一。愈妙愈奇。其附言曰新問也。何足為難哉。自答期人。萬年。此答。時元。其年。本。十。月。念。五。日。也。

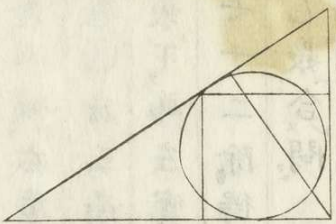




之手... 國... 又重... 諸... 而... 神... 而... 其... 術... 故... 今... 於... 此... 亦... 不... 其... 高... 且... 太... 難... 以... 國... 字... 今... 而... 不... 改... 為... 其... 察... 諸...

第二問

第三問



今有<sup>三</sup>鉤股內容<sup>方圓</sup>及中鉤只云圓徑  
 中鉤<sup>差</sup>又云圓徑方面<sup>差</sup>依<sup>此</sup>數  
 欲<sup>設</sup>得<sup>鉤</sup>股弦及長弦短弦五<sup>高</sup>之<sup>式</sup>  
 其術如何。

答曰依左術得<sup>五高</sup>四<sup>乘</sup>式<sup>上</sup>

壺中隱者曰余既<sup>答</sup>于中井某以<sup>畫</sup>式新術<sup>居</sup>上  
 幾何又得<sup>二</sup>問則藤澤武義之所<sup>設</sup>也此<sup>諸</sup>第<sup>一</sup>  
 愈<sup>妙</sup>愈<sup>奇</sup>其附言曰斯問也何足<sup>為</sup>難發春自<sup>答</sup>  
 期人窮<sup>年</sup>見<sup>答</sup>時元文某年冬十二月念五日也



於是發憤忘食。不堪望蜀之意。竟應其需。人皆稱神速。其術如左。

答於第二術曰。右三商和內減。右隅餘名為丙。○左隅內減。左三商和。餘名為丁。○以丙減右隅餘。乘丙。得內減。右廉餘。乘丙。得數。以減右方。餘乘丙。為右實數。○左三商和。乘丁。以減左廉餘。乘丁。以減左方。餘乘丁。為左實數。三十九之。以減右實。四十之餘。三百七十二除。得甲數六十。之以減右實。餘三十九。除得乙數。合問。

答於第三術曰。術內。只云數為只。又云數為。又。為中。再乘。以上除。乘。務從。省也。只

又和名為甲。○只又差名為乙。○列甲再自乘。以只四巾與又三巾乘之。得數。以乙六巾除之。段。四為正實數。○甲再巾。段。二因只。因又甲巾。以乙除之。段。四因又三巾。甲以乙巾除之。段。八三位相併。以只三巾與又巾乘之。得數。以乙四巾除之。為負方數。○因只再巾。因又三巾。甲以乙除之。段。八只三巾。又四巾相乘。得數。以乙巾除之。段。八因只再巾。因又甲再巾。段。二三位相併。得數。以乙三巾除之。為正廉數。○因又巾。甲以乙除之。段。二只甲相併。以又再巾乘之。以乙巾除之。段。四甲巾。三位相併。以只巾乘之。得數。以乙巾除之。為負隅數。○



只<sup>二</sup>又<sup>二</sup>相併。以只與<sup>二</sup>乘之。以乙中除之。為正三  
乘數。○以一算為負四乘數。合問。

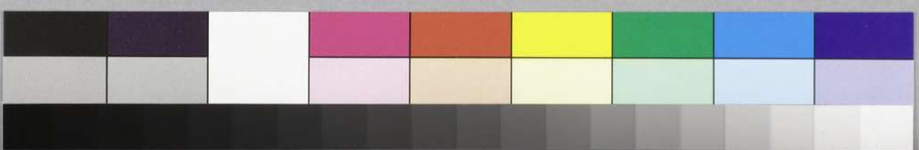
第四問

今有人買粟黍稗<sup>二</sup>品。不知其斛數。只云稗該銀開  
四乘法為粟該銀。再自乘之。為黍該銀。又云各每斛  
價。粟十三文。黍八文。稗五文。別云。各斛下。有奇。粟四  
斛<sup>十三分</sup>。黍三斛七升五合。稗八斛。問得各該銀術。  
三該銀不滿一十萬

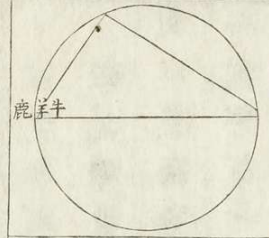
粟該銀十九文

答曰黍該銀六千八百五十九文

稗該銀二百四十七萬六千〇九十九文  
壺中隱者曰。此問鎌田俊清之門人細川某之所  
設也。蓋其本出乎嶋田氏。鎌田氏亦私淑。而與有  
聞焉。可謂源泉溷濁。不<sup>レ</sup>舍晝夜矣。宜哉其魁于諸  
問也。舊曰以蓆圍盛之。而不言每圍盛幾斛幾升。  
非狂而何。意脫落耳。今且不用圍之。一用量法。問  
術竟歸于一途。不敢妄變改。覽者莫<sup>レ</sup>恠焉。  
術曰。粟有奇通分內子。得數乘四十。黍有奇乘五百  
二十。稗有奇乘二千。八寸三位相併。得數以六十  
五除之。實不滿法者為粟。該銀。由此得各合問。



第五問



今有大圓池，徑二百十二里半。內有如圖三斜之洲。只云大斜二十里。中斜百七十里。小斜百里。又云鹿與牛羊聚居，于大小斜之尖。同時出去。牛行盡池周而還，是為一遍。其日行十三里之七分。羊如牛一之六。鹿亦如牛一之四。又行盡三斜而還，是為一遍。其日行七里之五分。如是循行，不知幾遍。問經幾日而再會何處。圓法。徑百十三。上周三百五十五。

百四十億。六千七百七十四萬四千五百

答曰四十三日而再會于距聚居之地三百八

十五里百十三分里之七十五

壺中隱者曰。是內田秀富之門人衢村重矩之所設也。余竊疑是亦出乎島田氏。不然何為設問如斯。其至者矣乎。是所謂翦管而窮理者也。其術如左。

術曰。依術得牛四十五兆四千三百七十四萬七千  
百五十九億七千九百三十四萬五千七百〇羊二  
十五兆〇八百七十七萬八千三百七十七億二千四



百六十九萬三千七百五十一〇鹿十五兆四千六百  
八十九萬八千二百六十六億二千三百〇亦萬二  
千五百右三數相併以三千四百八十一象之得數  
滿五千三百八十六萬〇八百二十二億二千六百  
三十九萬〇二百五十去之餘以百十三除之得再  
會日數由是得所問之里數合問

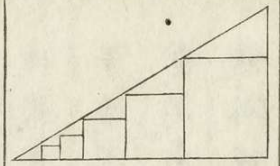
壺中隱者曰夫數之行于吾邦也莫盛乎浪華  
於是有鎌田氏内田氏中村氏川北氏者相繼崛起  
起乎享元之際各自以術鳴于各處人人自謂抱  
連城之壁家家自謂握懸黎之寶是以異間種種

懸之神廟龍宮而觀焉許以千金玉祠管廟稻荷  
座摩清水藤井明玉光寺等無所不然於是遠近  
人士雲集霧散或誦或筆非子張則安世也余亦  
幸生于其時得與諸子相共唱和凡五十四條集  
錄藏于家加討論潤色獲雋永十五條皆頗秘而  
不示人者也今年余歲適于耳順忽忽竟日冉冉  
窮年桑榆之期在于須臾因就十五條内鈔出五  
條以公諸嗜灸天幸加年則其餘十條亦所不隱  
也



設問五條

第一



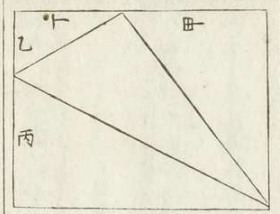
今有鈎股內如圖容五方欲使各寸無不盡只云鈎股弦及五方面共<sub>二</sub>和<sub>一</sub>二十一尺四寸四分六釐九毛九絲六忽問鈎股弦及五方面各若干

第二

今有四方之民同來于中州各買五色之絹只云東之所買每人青絹五十匹黃絹五十匹赤絹十三匹西之所買每人白絹八十九匹南則赤絹五十匹黃

絹四十匹青絹二十三匹北則黑絹八十九匹又云總計一萬匹問人數各西多於東北多於南東西差五之與南北差等若干

第三



今有直田如圖割與三斜之地欲使各步無奇零只云長平甲乙丙丁相和百二十步又云三斜共<sub>二</sub>和<sub>一</sub>百八步問得長平及三斜術

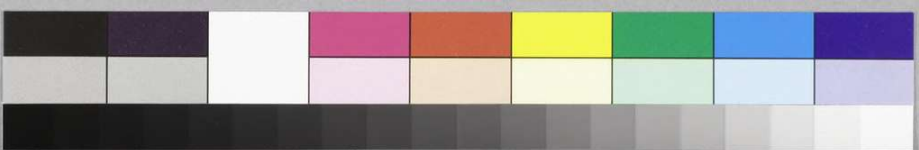
以下二問載在下之卷

算法少女中之卷畢









卷之十  
 平字二十八万字二十八万の。七言律絶の体  
 其字數と押巻さん〜とあり。只云反韻不拗體  
 と不用。惡三連〜も謹〜候と云〜。又云  
 同字と不用。翻〜點〜の〜も毎篇ある。一  
 色〜。其化の讀痛〜成犯〜も示可なり。  
 二體の篇數幾何〜問

前と係〜又同。四字小示〜。其言と係  
 其の〜

○ 上卷の如く自問十條自答如左。

第一

答曰 米粒十億。七十二百七十四万八千二百二十二。

依り〜 答 十億三律 六百外子八百廿七外  
律 七百二十外百廿二

口訣曰。一〜音九〜自糸〜。廿四〜得〜。再ハ  
 自糸〜得内定一〜減〜。米粒の數〜。律  
 法六万四千八百廿七〜。是と餘と石數と〜。其法  
 子滿〜。の〜。分母子と命〜。依法字中〜。得  
 依好と得〜合同。

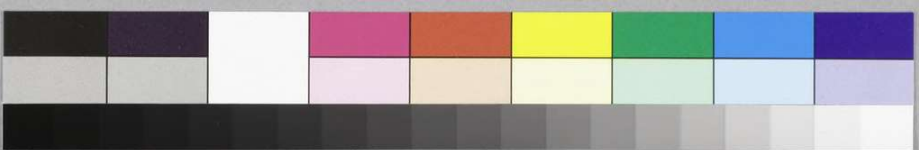
壹字讀者曰。定一と減と〜妙之又妙。

第二

答曰 二百四十四万八千二百二十二 再會







合間

第五

答云其術如左

以鉄曰二よりやうくせんとおりの。二九十八と素一。二と  
あり入。二九廿七と素一。四八九二廿六。又と又九字又  
下等あり。合間

第六

答云小圓徑字 方面三寸 寸五分

術曰大矢小矢お同。小圓徑。是より方面より合間。  
字法は開く字と得。小圓徑。是より方面より合間。

以鉄曰鉤股弦の鉤令。依く各と得。○大矢徑と弦より

○小矢径。股弦差と得。○大矢径。鉤弦差と得

○鉤弦差。同股弦差と得。小矢徑幕と得。○大矢

幕 小圓徑幕 一 お條字 一 頁 ○小矢 四 法 一 正

○一算と廉。一 頁 半法。用く六寸と得。鉤と得。大矢

二 加入。一 弦と得。大矢徑と得。小矢 二 減。一

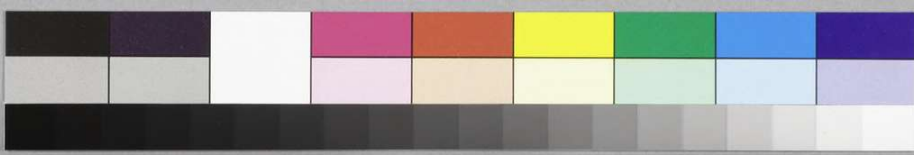
股と得。鉤と素。一 鉤股積 二 法。一 鉤股

和。一 尺字と法。一 是と得。方面三寸と得。実法

は満と得。若々。分母子。合。一 合間

第七





善云 總數千六百八十

御曰。奇のありり八十の内偶の総は四十と減し。四十と得。一と加へ四十と乘し千六百四十と成。偶の総は四十と加へし合向

御曰。是則壘堊之術也。倍同と可謂 核算なり。

身八

今修の數と後々御と施と事如左

一 銀三十貫百十之三息八徽

一 酒指七貫百十之三息七徽

一 浪中九百三十之三息六徽

一 月八百七十之三息五徽

一 月六百八十之三息四徽

右の件お侮者其と前此左

一 甲の指中九百十之三

一 乙日芬

一 丙の中指八百十二之三息三徽

一 丁の中指八百七十之三息二徽

一 戊の中指九百九十之三息一徽

御曰。御の指中分厘と拘ると皆一位と云ふ事は







算術 卷之十 算術 第二十六 十月五日 算術 半 何り 生 算術 の  
男女と問

答曰 男と生

術曰 年二十六の内 算月十と減し 銀六十倍し 二十定二  
と加え 左より 〇百と置内 左より 〇と減し 〇銀六十 実  
〇一算と法し 〇又一算と廉し 〇平方と開し  
高七と得る。実の銀は 十回 折半し 七。奇数は 〇男  
と。若偶数は 〇得し 〇女 〇。各問と合。

○求圓周秘術起源

口訣曰 一一 算 三九 算 五十五 算 七十九 算 九二十一 算 八十一 算 為乘率 〇

二三六 相乘 四五二 相乘 六七十二 相乘 八九十二 相乘 為除

率。餘倣之。○置三為原數。乘率同前。除率四之。 ○列原數一

乘二十四除為一差。○列一差九乘八十除為二差

○列二差二十五乘百六十八除為三差。未次第如

此。而至百差而止。○置原數以各差逐一加入得圓

周。

右不依角術。不用閉法。捷徑而不迂。簡易而不煩。  
過括疎遠矣。譬諸明珠之走盤。可愛可重。可玩可



賞。願。願。累。累。盤。渦。鼓。怒。忽。合。忽。散。互。相。觸。搏。覽。者。得。其。天。倪。幸。甚。幸。甚。

壺中隱者謹識

安永四乙未年十一月

東都



尚綱憲藏板



同 書林

本石町十軒店

山崎金兵衛

算法少女卷之下畢

醫師平氏乃女かろふ学へる  
教を予子とあらわぬ教へる  
糸かして三冊子あつたるの法  
翁の心算一を母も知るは  
ほく梓小らりてあはれん  
後席のぬしとあはれぬ世の  
こたはるもの流るる流の  
のこたはるもの外教乃及  
きりかたの知るる

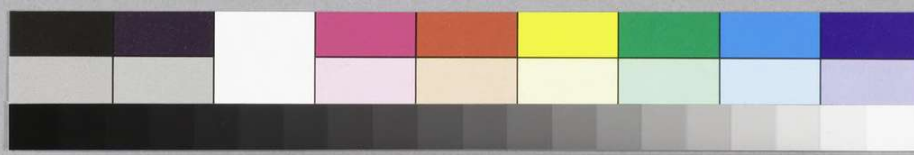


419  
1

考ふ人乃一なるに依てさうか  
 ぶの面あるはと譲て者の候乃  
 辞を申我も等しくさる  
 人と女の存の志を承ふは  
 めと一陽申あふはこいふ  
 安永の未を十二日







算法少女 わ419-1 00- 033

国立国会図書館

